

# 緩和ケアラダー評価表(2026年4月)

	評価項目	I(入職～1年)	II(2年以降～)	III(3年以上～)
総論	I: 患者・家族の理解と関係構築	4側面から捉える苦痛(身体・心理・社会・スピリチュアル)の基本的な概念を説明でき、得た情報で現在の状態が理解できる	得た情報から優先度の高いニーズをとらえることができる	4側面から患者の苦痛を統合的に捉えることができる
		AOPIについて理解説明できる	意思決定に必要な情報を提供できる	意思決定プロセスの調整役を担い、他職種と連携できる
		コミュニケーションの目的を理解し、患者や家族の価値観、希望や訴えを否定せずに受け止め傾聴し報告・相談ができる	適切なコミュニケーションスキルを用いて、現状を患者・家族に説明し、ケアを行える	コミュニケーションスキルを用いて包括的にアセスメントし、患者・家族の希望に応じたケアを行える
	II: 看護実践	基礎的な看護技術を実践できる	基本的な看護技術をマニュアルに沿って実践できる	レベル I、IIのスタッフが経験できていない看護技術を把握し指導できる
		終末期の特徴(身体的変化やがん悪液質に関連する症状)を説明できる	終末期の特徴を理解し段階的に進行していく過程をアセスメントしケアを実践できる	病態の段階的な進行を予測し患者の状態に合わせたケアを他職種と連携しながら行える
		症状悪化時に適切に報告・連携できる	症状緩和に基づいた看護計画を立案し患者に合わせたケアを実践できる	多方面からアセスメントを行いハイリスク患者を予測し他職種と連携できる
		セデーションの基本的な考え方を説明できる	セデーション前後の観察ができ、患者と家族のケアを指導のもと行える	セデーションに関する倫理的な問題に対するカンファレンスを主導できる
		臨死期の身体的変化を説明でき、指導を受けてエンゼルケアを実施できる	臨死期の身体的変化に対応し主体的にエンゼルケア、グリーンケアを行える	臨死期の身体的変化を予測し、エンゼルケア、グリーンケアを含めたケアと指導ができる
	III: ケアのマネジメント	指示に基づき安全にケアを行える	多職種カンファレンスで患者の状態を説明できる	ケアの方針についてカンファレンスを実施しチームで統一したケアが行える
		疼痛、呼吸困難、せん妄、悪心嘔吐、倦怠感、便秘について観察し報告・相談・記録ができる	症状に合わせた緩和ケアを薬物療法・非薬物療法を用いて実践できる	難治性症状に対して、緩和ケアチームと協働しながら高度なアセスメントができる
		当院で主に扱う麻薬について説明できる	麻薬をマニュアルに沿って使用・管理できる	麻薬管理を統括できる(麻薬リーダーができる)
		オピオイドの基本的副作用(便秘・眠気など)を理解して観察できる	オピオイドの調整に伴う観察ポイントを理解し、変化を捉えられる	オピオイドの使用方法をスタッフに指導できる
	IV: 専門職としての役割	緩和ケアの基本概念(倫理的配慮も含める)を説明できる	緩和ケアの基本的知識をスタッフに伝えられる	自己研鑽を継続でき、緩和ケア教育を企画しスタッフの知識向上と育成に関わる
		自己のケアを振り返り、指導を受けられる	倫理的課題に気づき考察し、チームに相談できる	倫理的課題に対してチームでケアの方向性を検討できるよう調整する
		自己の看護観や倫理的ジレンマに関する悩みや思いをスタッフに伝えられる	自身の悩みや思いをチームで共有し、相互理解を深めることができる	緩和ケアに携わる看護師のストレスの特性が理解でき、メモリアルカンファレンスを主催できる
	各論	症状マネジメント	疼痛、呼吸困難、精神症状、悪心・嘔吐、倦怠感、便秘、皮膚の問題に関する知識・技術について評価する	